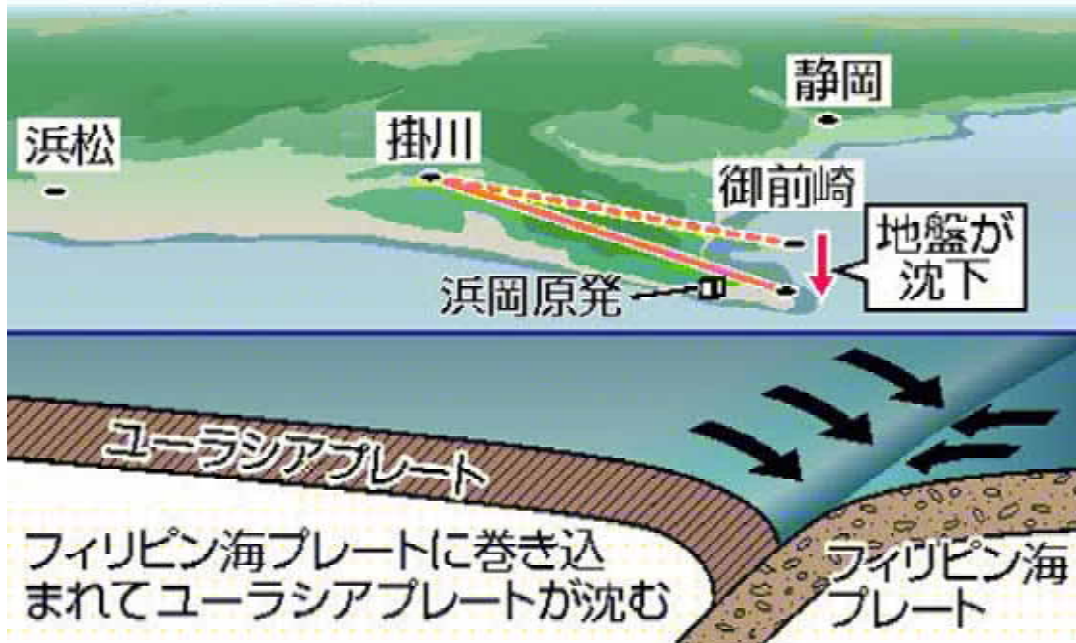


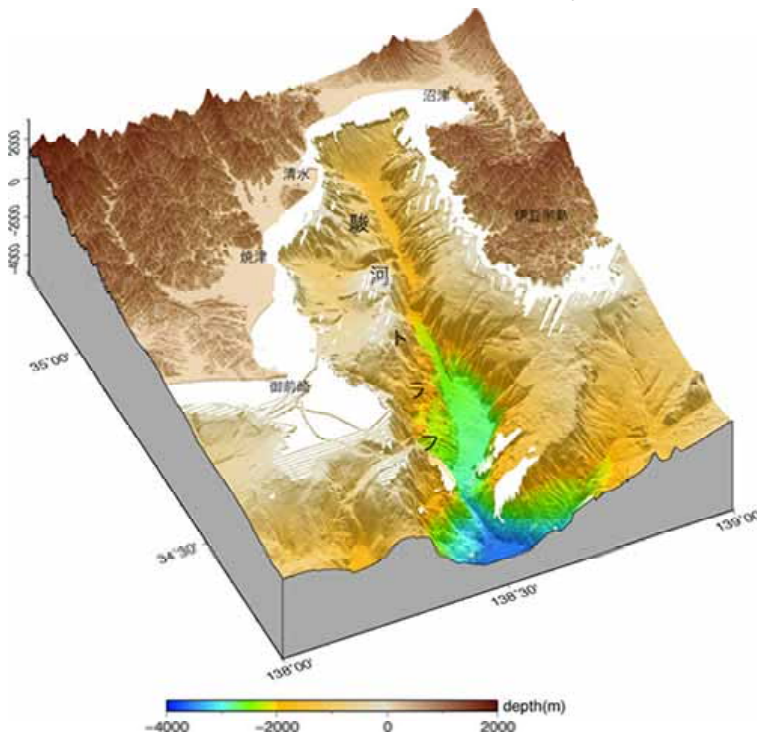
御前崎の沈下とプレート



この駿河トラフ、これに続く南海トラフの危険性が叫ばれ、「東海沖では、フィリピンプレートのプレッシャーで歪みは限界にきているはず」断定され、「東海大地震」の警報がでてからもう40年近くなり、やや気が緩んで来たところへ、東日本大震災が襲い、次は東海地方だとして一層警戒を強めたところです。

プレートの動きは休みなく続いているのだから、歳月が経るほどエネルギーが蓄積している訳で、より大きな揺れになる可能性がある。

事実、駿河湾先端の御前崎付近では10年で6cmの沈降があり、年に2cm西北西へ動いており、その警戒のいっかんとして御前崎の近くにある浜岡原発の休止を決めた菅総理の判断は英断と言わなければならないでしょう。



しかし、我国の大動脈たる東海道新幹線、本線、東名高速道路、国道1号線の静岡県通過は、大半が海岸線を通っており、特に興津付近は海岸まで山地が突き出ており、これらの幹線は海岸線ギリギリの所を通過しており、もし東日本大震災規模の地震・津波が襲ったら被害は甚大であることは間違いない。

対策はどうなっているのか、予算がないでは済まされない大問題が目の前にある。